

小・中学生のみる教師

善岡 宏*・榎本照代**

Teachers Observed by Elementary and Junior High School Students

Hiroshi YOSHIOKA and Teruyo ENOMOTO

目 的

教育は永遠を見つめるロマン——永遠はただ今この一瞬に内包されており、ロマンは苦難を伴う労作業の上に築かれる。遠い先のことではない。断じて気楽な営みではない。教師は常にその資質が問われ、理想と現実との間のギャップに批判の目が向けられる。私たちは、己の資質を問い、批判の目を直視し謙虚に應えていかなければならない。例外はないものとしなければならない。

中邑 (1986) は、研究事例に基づき、母親からみた期待される教師像、管理指導の立場にある人からの理想的教師の条件、望ましくない教師の特性、について記述している。

上寺 (1991) は、豊富な教育経験から、子どもから尊敬される教師について提言している。彼は、教師の資質・特性について4次元で構造的・立体的に把握している。素地としての資質・特質 (第1次元)、指導の中で生きて働く資質 (第2次元)、組織の中で生きて働く資質・特質 (第3次元)、モラルとモラール (第4次元) からなり、第1、4次元は人間性にかかわり、第2、3次元は職業性にかかわりをもつとしている。そして、完成された教師ではなく、失敗を繰り返しながらも成長し続ける教師を前提にして、成長する教師そのものが子どもの成長を導き、そこに、好き→慕う→尊敬するの心もちが育つと考えている。

岩橋と高橋 (1991) は、中学生と高校生が教師に何を望んでいるかを明らかにするために54項目からなるアンケート調査を実施している。中・高校生とも「わかりやすく教えてほしい」、「楽しい授業をしてほしい」の2項目 (授業の進め方に関する事) が教師に望むことの最上位であることがわかった。ついで、「約束を守ってほしい」、「気分によって態度を変えないでほしい」、「生徒のことを信用してほしい」、「よいところを認めてほしい」の4項目 (人間としての対等なかかわり合い) が、中・高校生共通に望まれていることを明らかにした。これらの上位項目は、上寺 (1991) のカテゴリー—職業性 (専門性) にかかわる資質・特性と人間性にかかわる資質・特性であるといえよう。

岩崎ら (1991) では、被検者が項目「……ほしい」に対して、「そう思う」(2点)、「どちらともいえない」(1点)、「そう思わない」(0点) で評定した結果が分析されている。

*長崎大学教育学部教育心理学教室

**鹿児島県中種子町立野間小学校

この方法では、日常にかかわる教師についての認知—教師をどのようにみているか—は必ずしも明らかではない。たとえば、「熱心に教えてほしい」の項目は、高校生では望むことの10位であったが、中学生では10位にも入っていない。このことから、生徒は「熱心に教えてほしい」と思っていないとはいえないのではないだろうか。熱心に教えてくれる教師に満足している場合もあるのではないだろうか。直接的に、生徒が教師をどのようにみているかについて知る必要があると思われる。

今回の報告では、教師を小学生・中学生はどのようにみているか、そして教師に何を望んでいるかをアンケート調査によって明らかにすることを目的とする。

方 法

調査対象

小学校3年生～6年生33名（男子14名，女子19名）および中学校1年生～3年生53名（男子30名，女子23名）であった。調査実施学生の個人的な知り合いや通塾生に協力をお願いした。

小学生または中学生の保護者45名。ここでの保護者は前述の小・中学生とは必ずしも対応していない。

調査内容

岩崎ら（1991）の研究で用いられた質問項目を参考にして、調査内容を決定した。子ども用は、3つの観点から構成した（表1）。

セッションⅠ

まず、現実に出会っている教師（必ずしも担任教師ということではない、また塾の教師や家庭教師は含まない）に対して子どもたちはどのように感じているかを明らかにするために、たとえば「話を聞いてくれると思いますか？」など、おおむね事実に関する質問を28項目設定した。回答では、「そう思う」、「わからない」、「そう思わない」のいずれかのあてはまるものに○印をつけるようにした。

セッションⅡ

次に、教師に対して何を望んでいるかを見るために、たとえば「やさしい先生であってほしい」などのように「……ほしい」という形式で48項目の質問を設定した。回答は、「……ほしい」と思う項目には○印を、思わない項目には×印をつけ、わからない場合には何も記入しないようにした。

セッションⅢ

3点目は、好きな教師のタイプと嫌いな教師のタイプについて自由に記述するものであった。

保護者用では、「……ありますか?」、「……思いませんか?」、「……ほしい」形式の質問15項目について、それぞれ「そう思う」、「わからない」、「そう思わない」の3件法で回答してもらった（表2）。

表1 質問項目（児童・生徒共通）

質問セッションⅠ		
1. 授業中よくあてると思っていますか	15. えらそうなことばかり言うと思いませんか	
2. 楽しい授業をしてくれると思いませんか	16. 親にすぐ連絡すると思いませんか	
3. わかりやすく教えてくれると思いませんか	17. 宿題をたくさん出すと思いませんか	
4. 無視をすると思いませんか	18. 授業中、説教をすると思いませんか	
5. ひいきをすると思いませんか	19. いっしょに遊んでくれると思いませんか	
6. 頼れる先生だと思いませんか	20. ガミガミ言うと思いませんか	
7. やさしい先生だと思いませんか	21. イヤミを言うと思いませんか	
8. おしゃれだと思いませんか	22. 声をかけてくれると思いませんか	
9. だらしくしていると思いませんか	23. 話を聞いてくれると思いませんか	
10. 約束は守ると思いませんか	24. 本音で話してくれると思いませんか	
11. 自信を持った態度だと思いませんか	25. あなたの気持ちをわかってくれると思いませんか	
12. 気分によって態度が変わると思いませんか	26. 良くないところを教えてくれると思いませんか	
13. 男子と女子で差別すると思いませんか	27. 困っていることがあったら相談に乗ってくれると思いませんか	
14. きまりについて、厳しく注意すると思いませんか	28. 気軽に話せると思いませんか	
質問セッションⅡ		
1. 熱心に教えてほしい	17. 黒板の字はきれいであってほしい	33. さわいでいる人がいたら、注意してほしい
2. 約束を守ってほしい	18. 質問をきちんときいてほしい	34. きまりについて厳しく注意してほしい
3. 授業中あててほしい	19. 気安くさわらないでほしい	35. 宿題を出さないでほしい
4. 無視しないでほしい	20. 明るい先生でいてほしい	36. 授業中説教をしないでほしい
5. ひいきしないでほしい	21. いばらないでほしい	37. いっしょに遊んでほしい
6. おしゃれにしてほしい	22. やつあたりしないでほしい	38. ガミガミ言わないでほしい
7. 頼れる先生であってほしい	23. しかるときはしかってほしい	39. 自分のことはかまわないでほしい
8. 友達のように接してほしい	24. 暴力をふるわないでほしい	40. 声をかけてほしい
9. 楽しい授業をしてほしい	25. 自信を持った態度をとってほしい	41. 悩みを話せる先生であってほしい
10. だらしくしないでほしい	26. きたない言葉を使わないでほしい	42. 話を聞いてほしい
11. ユーモアをわかってほしい	27. 友達のことを悪く言わないでほしい	43. 本音で話してほしい
12. 自分達をわかってほしい	28. 気分によって態度をかえないでほしい	44. 自分の気持ちをわかってほしい
13. よいところを認めてほしい	29. 男子と女子を差別しないでほしい	45. 信用してほしい
14. やさしい先生であってほしい	30. きまりについてうるさく言わないでほしい	46. 気軽に話せるようになりたいしてほしい
15. わかりやすく教えてほしい	31. 他の先生によいことを言わないでほしい	47. 自分のよくないところを教えてほしい
16. さっぱりした先生であってほしい	32. えらそうなことばかり言わないでほしい	48. 困っていることがあったら相談に乗ってほしい
質問セッションⅢ		
『好きな先生のタイプと嫌いな先生のタイプ自由に書いて下さい』		

表2 質問項目（保護者用）

1. 教師に不満を感じる場合がありますか	9. 自信を持った教師であってほしい
2. 教師の身なりは気になりますか	10. 一本しかりと筋の通っている教師であってほしい
3. 教師の資質はもっと向上させるべきだと思いますか	11. 子どものことを信用している教師であってほしい
4. 教師という職業は楽だと思いますか	12. きまりや規則は厳しく指導してほしい
5. 教師は信用ならないと思いませんか	13. 学校での出来事は、すぐに連絡してほしい
6. 熱心な教師であってほしい	14. 学校で、しつこくしてほしい
7. 頼れる教師であってほしい	15. 自分の子どもは、ひいきしてほしい
8. 気軽に話せる教師であってほしい	

結果と考察

1. 小・中学生の教師に対する認知

現実の教師に対して子どもたちはどのように受けとめているのであろうか。質問セッションIで、回答に統計的に有意な偏りが見られた5項目（上位から）を小・中学生別に表したのが表3である。全体的に見て、小学生、中学生共に教師に対して悪いイメージは持っていないようである。ただ、「きまりについて厳しく注意する」と思っている。教師として、学校のきまりを守るように指導するのは、社会生活をする上で、他人に迷惑をかけずに自立できる人間に育つようにという観点からであろう。児童・生徒に対して厳密に校則等にしがった指導をするようになると推測できる。このような教師の姿勢を一面厳しいと受止めているのであろうか。あるいは、校則をたてに、教師の意志を通す場合もあり、それに対する批判とも考えられる。また、小学生は、先生は「気分によって態度が変わる」と思っている。児童も心が揺れているとともに、教師自身も情緒的に揺れることがあり、その時々気分によって、にこやかであったり、怒りっぽくなったりすることがあるのであろうか。

小学生は授業や学習場面で、教師に対して好イメージを持っている（「楽しい授業をしてくれる」、「わかりやすく教えてくれる」）。それに対して中学生は、人間的関わりの面で好イメージを持っているといえる（「困っていることがあったら相談にのってくれる」、「本音で話してくれる」）。

表4は、子どもが教師に望むことについて回答の多かった上位5項目を小・中学生別に表したものである。小学生、中学生共に「頼れる教師」、「楽しい授業」、「明るい教師」が挙げられている。小学生では、「良いところを認めてほしい」という承認の欲求が入ってきている。中学生では、教科の内容が難しくなるためか、「わかりやすく教えてほしい」と望んでいる。

2. 小学生と中学生の比較

教師に対する認知および教師に望むことについて、小学生と中学生の間で回答に有意な偏りが見られたものが表5と表6に示されている。「おしゃれだと思いますか」については、小学生では回答に有意な差がなかったが、中学生では「そう思わない」が有意に多かった。小学生、中学生共に、「だらしなくしている」と思っていないことと合わせて考えると、小学生では、「だらしなくして」いなければおしゃれであるかないかはさほど気にならないが、中学生では、「だらしなくして」いなくても、さらに教師の身だしなみについて厳しい目を持って見ていることがうかがえる。

「いっしょに遊んでくれると思いますか」の質問に対しては、小学生では有意な差はみられなかったが、中学生では、「そう思わない」と答えた者が有意に多かった。クラス担任制の小学校と教科担当制の中学校との違いが現れている。一方、「いっしょに遊んでほしい」に対して、小学生では「そう思う」者が有意に多く、中学生では「そう思わない」者が有意に多かった。小学生の場合は、教師を中心にして、いくつかの下位集団を持ちながらクラス全体で遊ぶという構造が考えられるが、中学生の場合は、話の合う友だちと遊ぶことが多く、教師はむしろ仲間との間に割って入ってきてもらっては、楽しく仲間同士との話ができないと思うのだろうか。時には教師に聞かれたくない話をしたりもする中学

表3 教師に対する認知

(小学生)

順位	質問項目	回答(人数)		
		そう思う	わからない	そう思わない
1	きまりについて厳しく注意すると思いますか	23	6	4
2	楽しい授業をしてくれると思いますか	21	7	5
3	わかりやすく教えてくれると思いますか	20	7	6
3	話を聞いてくれると思いますか	20	8	5
5	気分によって態度が変わると思いますか	19	9	5
5	声をかけてくれると思いますか	19	10	4

順位	質問項目	回答(人数)		
		そう思う	わからない	そう思わない
1	だらしくしていると思いますか	4	7	22
1	親にすぐ連絡すると思いますか	4	7	22
3	えらそうなことばかり言うと思いますか	7	6	20
4	無視をしますか	5	10	18
4	宿題をたくさん出すと思いますか	8	7	18
4	イヤミを言うと思いますか	7	8	18

(中学生)

順位	質問項目	回答(人数)		
		そう思う	わからない	そう思わない
1	気軽に話せると思いますか	36	11	6
2	きまりについて厳しく注意すると思いますか	34	7	12
3	困っていることがあったら相談に乗ってくれる と思いますか	31	13	9
4	話を聞いてくれると思いますか	30	16	7
5	本音で話してくれると思いますか	29	16	7

順位	質問項目	回答(人数)		
		そう思う	わからない	そう思わない
1	宿題をたくさん出すと思いますか	5	7	41
2	無視をしますか	6	11	36
3	授業中よくあてると思いますか	12	5	35
4	おしゃれだと思いますか	5	15	33
5	だらしくしていると思いますか	6	15	31

生にとっては、相談相手ではあっても、遊び相手ではないのであろう。「困ったことがあったら相談に乗ってくれると思いますか」の質問に対して、中学生において「そう思う」者が有意に多かったこと、「困っていることがあれば相談に乗ってほしい」と思う者が有意に多かったこと、からもそのことが推測できる。

表4 小・中学生が教師に望むこと

(小学生)				
順位	質 問 項 目	回 答 (人数)		
		そう思う	わからない	そう思わない
1	頼れる先生であってほしい	32	1	0
2	楽しい授業をしてほしい	32	0	1
3	やさしい先生であってほしい	32	1	0
4	明るい先生であってほしい	31	1	1
5	よいところを認めてほしい	30	2	1

(中学生)				
順位	質 問 項 目	回 答 (人数)		
		そう思う	わからない	そう思わない
1	自分のことはかまわないでほしい	5	8	20

(中学生)				
順位	質 問 項 目	回 答 (人数)		
		そう思う	わからない	そう思わない
1	頼れる先生であってほしい	50	3	0
1	楽しい授業をしてほしい	50	3	0
1	明るい先生であってほしい	50	3	0
4	わかりやすく教えてほしい	49	3	1
5	気分によって態度をかえないでほしい	49	2	2

(中学生)				
順位	質 問 項 目	回 答 (人数)		
		そう思う	わからない	そう思わない
1	授業中あててほしい	7	8	38
2	きまりについて厳しく注意してほしい	12	9	32

表5 小学生と中学生における「教師に対する認知」の比較

質 問 項 目	小 学 生			中 学 生		
	回 答 (人数)			回 答 (人数)		
	そう思う	わからない	そう思わない	そう思う	わからない	そう思わない
おしゃれだと思いますか	9	12	12	5	15	33
いっしょに遊んでくれると思いますか	13	6	14	8	20	25
本音で話してくれると思いますか	7	20	5	29	16	7
困っていたら相談にのってくれると思いますか	10	15	8	31	13	9

「本音で話してくれると思いますか」の質問では、小学生では有意な差はなかったが、中学生では、「そう思う」と答えた者が有意に多かった。受験など進路決定の面談などで特に教師と1対1で話し合う場面に出会う中学生には、真摯で、誠実な態度で接する教師を正當に評価をしているようである。また、大人の言葉を理解する力もついていることを

表6 小学生と中学生における「教師に望むこと」の比較

質問項目	小学生			中学生		
	回答(人数)			回答(人数)		
	そう思う	わからない	そう思わない	そう思う	わからない	そう思わない
熱心に教えてほしい	20	3	10	44	7	2
授業中あててほしい	14	6	13	7	8	38
いっしょに遊んでほしい	20	5	8	17	12	24

反映しているといえよう。

「……ほしい」項目群のうち、小学生と中学生で答え方に差が見られたのは「熱心に教えてほしい」、「授業中あててほしい」、および前述の「いっしょに遊んでほしい」の3項目であった。

「熱心に教えてほしい」項目では、中学生において「そう思う」と「そう思わない」との間に有意差が認められた。小学校の場合、一人の担任教師がほとんど全ての教科について教えるが、中学校の場合、各教科で教師が異なる。そのため中学生の方が熱心に教えてくれる教師と、余り熱心でない教師との差を感じやすいであろう。一部の教師、一部の教科に対する気持ちを表していると考えられる。

「授業中あててほしい」項目では、小学生では答え方に差はなかったが、中学生では「そう思う」よりも「そう思わない」と答えた者が有意に多かった。表1において「授業中あてられる」と思っていないことが示されているが、「あてられる」ことも望んでいないことが明らかになった。中学生の場合、あてられて間違ってしまったら……とか、みんなの前で発表するのが恥ずかしい等の思春期らしい思いが根底に潜んでいるようである。

3. 好きな教師のタイプ嫌いな教師のタイプ

好きな先生のタイプ、嫌いな先生のタイプについての自由記述から、教師に望むものを記したのが表7である。質問項目中のものと重複するものが自由記述の中にあったが、ここでは質問項目にはなかったものについてのみ記している。

小学生と中学生では教師に対する視線は多少異なっている。小学生では、「自分に似て

表7 好きな教師のタイプと嫌いな教師のタイプ

<好きなタイプ>	
小学生	中学生
自分に似ている	生徒と同じ意見を持つ
わからないところをやさしく教えてくれる	やる気を出させるのが上手
スポーツが好き	教師特製の授業
かわいがってくれる	話題が豊富
何回も同じことを言わない	イベントに燃える青春な
	傷ついているときにはそっとしておいてくれる
	けじめがある
	元気な

いる]、「かわいがってくれる」先生を好きなタイプとする子が見られる。『人には、考え方や、行動面で自分に似ている他者を承認する傾向がある』(小川, 1974, p.182) 教師は個々それぞれ違う子どもの中から、自分に似た子どもを知らず知らずのうちに好くようになる。子どもの方も同様に自分に似ている教師は受け入れやすいのであろう。情緒的結び付きが好き嫌いの一つの基準になっているのではなかろうか。

一方、中学生では、「仕事をしない」、「自分の失敗を認めない」等の教師一生徒関係以外の他の対人関係においても好まれないであろう行動に目を向けている。中学生は人間的な側面で教師への観察が鋭くなっていると思われる。

4. 保護者が教師に望むこと

保護者が「教師に不満を感じた」ことはあまりないが、「教師の資質は向上させるべきだ」と思う人が多い(表8)。ただし、「資質」をどのようにとらえているかについては明らかではない。

表8 保護者が教師に望むこと

質 問 項 目	回 答 (人数)		
	そう思う	わからない	そう思わない
1. 教師に不満を感じることがありますか	24	4	17
2. 教師の身なりは気になりますか	11	3	31
3. 教師の資質はもっと向上させるべきだと思いますか	30	9	6
4. 教師という職業は楽だと思いますか	5	4	36
5. 教師は信用ならないと思いますか	2	9	34
6. 熱心な教師であってほしい	39	4	2
7. 頼れる教師であってほしい	43	0	2
8. 気軽に話せる教師であってほしい	43	1	1
9. 自信を持った教師であってほしい	36	2	7
10. 一本しっかりと筋の通っている教師であってほしい	39	3	3
11. 子どものことを信用している教師であってほしい	42	2	1
12. きまりや規則は厳しく指導してほしい	22	11	12
13. 学校での出来事は、すぐに連絡してほしい	21	13	11
14. 学校で、しつけをしてほしい	10	7	28
15. 自分の子どもは、ひいきしてほしい	0	4	41

最近では、保護者が、教師よりも学歴が高く、各種のサークル等での文化・子育て学習活動の機会が豊富にあり、教育に関する情報を持っている場合もあるが、「教師は信用ならない」と思う保護者は非常に少ない。専門職である教師に対する肯定的な姿勢がうかがえる。

「きまりや規則は厳しく指導してほしい」と「学校での出来事は、すぐに連絡してほしい」という項目では、「そう思う」と「そう思わない」で有意な差はみられなかった。

一方、「熱心な」、「頼れる」、「気軽に話せる」、「自信を持った態度の」、「一本しっかりと筋の通っている」、「子どものことを信用している」教師を望んでいることがわかる。

引用文献

- 岩崎治美・高橋知音 1991 子どもが教師に望むこと——アンケート調査結果から—— 教育心理 39, 3, 206—209。
- 上寺久雄 1991 子どもから尊敬される教師とは 教育心理 39, 3, 16—19。
- 中邑平八郎 1986 教師の心理 小西秀勇(編著) 教育心理学概論 北大路書房 197—213。
- 小川一夫 1974 子どもの性格と教師の性格 教育心理 22, 3, 180—183。